

札幌短信

無防備国際シンポジウム から9月直接請求成功へ

3月17日、雪の舞う札幌市で、「いかなる戦争にも協力しない・札幌市無防備地域宣言条例を」と題した集いが開催された。

この集いは、前日(16日)は苫小牧市、翌日(18日)は石狩市と続く講演会の一環で、9月に無防備条例直接請求署名を予定する無防備地域宣言をめざす札幌市民の会が呼びかけたもの。

無防備地域運動は政策提言

前田朗東京造形大教授は、軍隊のない国訪問の報告とともに憲法9条を守る意味について講演した。前田教授は「憲法9条を守るということは、9条の法律内容(戦争放棄、戦力不保持、交戦権の否認)を実現させることを追求し、その中で改憲させないことである。現状維持の反対運動に止まらず政策提言をすることが必要であり、それが無防備地域宣言運動である。憲法9条と前文による戦争に協力し

ない権利に基き自治体に戦争に関する事務を行わせない運動を構築し世界の平和運動へ日本から発信しよう」と明快に述べた。

日常的取り組みで平和を

参加者からは「デモだけでは平和はこない。この運動が宣言のみが目的でなく、日常的な取り組みとわかった。」「反対運動だけでは困難なことが今日の話で分かった。本当に平和を求めたい。」「初めに参加した。微力だが実現する力になりたい。」「等この運動への期待が語られた。さらに隣接の石狩市から参加の市会議員は、「市議会が無防備地域宣言について質問した。市長は見守ると答弁し否定しなかった。石狩市でも講演会をする」と運動の拡大へ力強い報告をされた。

国際シンポ実行委結成

この集いでは、全国ネットワークから7月29日に札幌市で開催するジュネーブ条約追加議定書30周年国際シンポジウムが呼びかけられ、実行委員会が結成された。このシンポジウムはフィリピンや米国の運動と連帯しピースゾーンを世界に広げるとともに、札幌での運動を大きく成功させる国際会議として大きな意義をもつ。

国際シンポから札幌直接請求署名成功へ全国から支援を

札幌市民の会の谷百合子さんは「箕面市長の賛成意見書の例を見て平和の風がこちらに吹いていると感じる。札幌の10区各区に50人から1000人の受任者をつくり、五万筆集めたい。また7月の国際シンポジウム成功へ札幌現地でも動き始めている。全国からの参加を待っています。ご支援を」と訴える。札幌市民の会では、今後、市内各区でミニ集会などを開催し運動を広げていく予定だ。7月の国際シンポジウムの成功をステップに、北海道で初の無防備条例直接請求運動となる9月の署名を成功させるため全国から支援を強めよう。

ジュネーブ条約追加議定書 30周年記念国際シンポジウム

自治が平和を切り拓く

7月28日(土)
午後3時 無防備全国ネット代表者会議
午後6時 国際シンポジウムレセプション
場所:北海道クリスチャンセンター(札幌市)

主催:国際シンポジウム実行委員会

各地にピースゾーンを

7月29日(日)
午後1時~ 国際シンポジウム
場所:札幌市教育文化会館
報告者(招請予定)
フィリピン・ミンダナオ島ピースゾーン運動の実践者
アメリカ:反戦・非核運動から 日本から